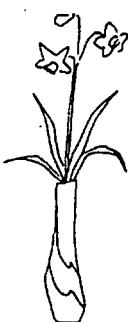


# 教育を父母・国民の手に

—豊かな子どもを育てる私たちの実践を大きな流れに—



## 高橋武昌

私が赴任した南中野山小学校は、新潟住宅地で新潟市のペットタウンであります。児童数八七〇、私は一年二組で四十二名を持っています。学級の子は、十四の保育園から集まっていますが、どの子も転勤で来た子、その地にうつり住んで十年以内という子、新潟市が主だが全国各地の子が混っている生育基盤のちがう子たちです。

体を駆使して遊べない子や友だち同志いっしょにものごとにとりくむことがへたな子たちが目立った四月でした。丸山小学校の一年生で見ることの出来ない大へんな子たちだつたのです。入学して、ようやく一か月たつとする四月二十八日に

「まあ、あすから一日間おやすみです。思いっきり外であることと、学級のおともだちや近所のおともだちと遊ぶことがしゃくだいです。」といいました。

「だいごくんとしんすけくん、ならんですわつています。その、しんすけ君の五月一日の絵日記に「きのうしようゆだんごおたべたから いからだいごくんおたべたくなりました」とありました。となりあわせになつた二人が、よく、「だんごくん」とかいあつていた親しいことばが、絵日記に出てきたことと、私が出した宿題は、充分実行できなかつたけど、だいごくんのことを考えた——即ち、だんごを食いながら、だいごくんを思いだし、たべたくなたとユーモアたっぷりに綴つたことを私は、すごくほほえましいと思つたのです。さっそく、次の日、スーパーから

「しゅうゆだんご」を買っていき、朝の会ではなしを始めました。「 shinちゃん前においで。今日はね、先生は、きみの絵日記 すばらしいから、このしゅうゆだんごあげることにした。」といつてかばんからしょゆだんごのパックをとりだすと教室は騒然としました。「先生ぼくにちょうどいい。」「なんで shinちゃんばかりたべるの。」「いいなあ。」「先生くれる。くいたーい。」大合唱です。

shinちゃんは、私のいうままで、一本たべる。みんな「ああー」と声をあげます。「 shinちゃん、おいしかった? どうして、 shinちゃんがね、しゅうゆだんごをたべられるかといつてね、ほら、この絵日記 よんでもどらん。 shinちゃんはね、しょゆだんごを食べながらも、友だちのことを考えられたんだ。しょゆだんごをたべていたら、だいこんをたべくなつたんだって。友達のこといつでも考えられる子なんて、すばらしいなあ。今日のしゅうゆだんごは、そのごほうびです。」

「先生、ぼくも、友だちのことを考えるからだんごちょうどいい。」とみんなは、いました。四日から入学以来はじめての家庭訪問。どこの家でも、しゅうゆだんごの一枚文集でもちきりです。

◎先生の考え方、気にいった。私のうちでもしゅうゆだんごを買って与えましたよ。

◎私のうちは、きのうは、しゅうゆだんごのかわりにケー

◎絵日記の中のだいごくんの文で、「だいごくんをたべたくなりました」というところとでも、子ぞもらしくほほえましいですね。

今、子どもたちに、なぜいっしょに勉強するのか、いつじめての家庭訪問。どこの家でも、しょゆだんごの実践は、伸介君のある日の日記をほめる仕事にとどまらず、これから、何がなんでも、父母と手をつなぎ、子どもを共に育てる基盤づくりに役立ったと思つ



ています。

新設校で、転勤の多い、いろいろな地域から寄りあつまつてくる学区と先に書いたけれど、バラバラな子たちも、時間をおうごとに、自らを解きはなち、生き生きと学校生活をおくつていきました。

## 一、だいごくんの転校

だいごくん、家の都合で郊外にひっこすことになりました。子どもたちは、しようゆだんごをみんなで食べてお別れ会をしようということにならました。

「だいごくんと さようならのあくしゅをしたら、手がとても あたたかくなりました。だいごくんとわかれたくないけど、しかたない。わかるのが とっても さびしいです。」（まさひろ）

「きょう、だいごくんが いなくなるので、わたしはさびしい。こうかを うたつて いるとき なみだが ずっとでてきて おちました。はずかしかったので「目にごみがはいった」と いいました。いたずらして いただいごくんだけが、いなくなれば さびしいです。わたしは、あまり、だいごくんが、すきじゃなかつたです。でも、きょう、あく手をしたとき やっぱり ともだちだと おもいました。だいごくんは、やさしいです。おりがみ一まいだけど、ゆ

るしてくれました。わたしは、わるいなあとおもいました。わたしは やっぱり だいごくんのことを わすれません。」（もとえ）

「だいごくんは、いろいろやつたね。すかーとめぐりやけんかもしたね。そして、ともだちも いっぱいつくつていた。だいごくん、ひっこしさびしいことだね。わたしも、とやまから にいがたに くるのが つらかった。でもだいごくんは、そんなに とおくなくていいね。」（なお子）

二しゅうかん前からとりくんだ お別れ会は、楽しくやりました。うた・プレゼント・おわかれのあいさつ・だんごをたべる・体ごとあそぶゲームたいかい……と。子どもたちは一年生なりに分担しほんとうによく協力しあいました。お別れ会でなきだした子もいました。しようゆだんご三十人分でたりなく残りをもなかにしたら、「先生、しようゆだんごたべながら友だちのことを考える子はいい子だといったのに、もなかじゅいやだ。」なんて だだをこねられました。この日のことを一校文集のあとがきに次のように書きました。

「だいごくんのてんこう。だいごくんはその木小学校に十一月一日に てんこうしました。ともだちとけんかしたり、いっしょにべんきょうしたりあそんだりしました。みんなの 子どもは ひっこしのけいけんが おおいと

おもいます。ひとつは とても ゆめの あることかも  
しません。

がんばって つくった あたらしい うちにはいれるから  
うれしい。おとうさんの はたらく、かいしゃが かわつ  
て みんながうつるので、たいへんだ。

でも、いやなことも おおいですね。したい人や と  
もだちと わかれなければなりません。子どもにとつては、  
すきなあそびばや むしのいるあなや ひみつのきちから  
も さよならしくはなりません。

だいごくんとの 七か月の セいかつたからものは  
なんだたでしよう。それは、やはり、しんすけくんの  
はなしのよう いからし だんごが たべたくなつたと  
いうはなしのよう ともだちのことをいつしょくんめ  
いに 考えたことではないでしようか。そうですね、とも  
だちが、わたしたちの セいかつのなかで、どんなに す  
ばらしいかを まなんだことではないでしようか。

ですから、だいごくんも あたらしい がつこうで と  
もだちの ことを まじめなきもちで かんがえて いき  
ていけるものと しんじて います

お別れ会の一連の実践を親は、子どもを通して、一枚文  
集を通して 大変関心を示しました。毎日のように、子ど  
もの連絡帳、お手紙を通して、母親の話がつづられていま  
した。

その中で、何といつても、「教師が、転勤という、生活  
の中でもっとも大きな出来ごとを、お別れ会などを通して、  
子どもと学びあっている姿がいい。」とか「親として、転  
勤という事実が大変なことを改めて考えさせられた。」と  
がありました。私は、毎年一割近く子の転勤があるこの学  
校の教育の課題に、人間が出合う、人間がわかれるという事  
実を柱として入れることが、地域に根ざし父母に根ざす教  
育のひとつとも思っているのです。この課題を、私のかか  
わる全ての教育活動の場で追求しようとする、今までみ  
えなかつた子ども、今まで考えられなかつた実践がどんど  
ん生みだされてくるのです。

### 三、子どもの生きる力とそれを支えるもの

一年一学期後半から、どうも、学級の中の弱い子、あま  
りしゃべらない子が、元気のいい男子たちに集団でいじめ  
られることが目立つてきました。その強い子の方の一人上  
原君はお父さんがエリート商社マン、お母さんは家にいま  
す。おねえさんが一人いてとても優秀です。上原君も優秀  
で発言力があり、記憶力は抜群です。

ある男の子は、図工の時間私に「ブレーメンのおんがく  
たい」の絵で森のかき方がうまいとほめられ気をよくして  
います。ところが、この子は、上原君に、私のいないとこ



ろで「へたな絵だな。」「きつたね色。」いろいろ言わ  
れ、元気をなくしてしまった。家に帰るなり学校へは行き  
たくないといつづけるしまつ。弱いものをいじめていく  
姿は、どこでも見られる風景ですが、具体的に手をくだす  
ことの他にそのようにことばで攻撃する姿もありました。  
先の子は、私に朝の会に出してはなしたいと相談されたの  
は一週間もいいづけられたあとのことでした。

バラバラの子どもたちとは、いじめたりいじめられたりす  
る姿で、新しい問題を私に提起してきたのです。上原君へ  
の対処・親との話しあい・学級の先生との話しあい・学級  
みんなとの話しあいもつづける中で、ひとつひとつ解決は

してきましたが、この分散したものの考え方・生き方の子どもたちをいかに、人間に再編成をして、創造し連帯していく集団にするかが、二年生のはじめからの最大の課題となりました。

このことを意識して、学年学級で試して来たことをメモ風にあげてみますと

① 子どもの実像をつかむ。彼らの頭で思つたことを綴らせるところからつかみ直す（文集をどんどんつくっていく）

② 子ども一人ひとりの持つている、いいところ人間的に共感できることを、いっぱいとりあげ学級のみんなにひろめ財産にしていく

③ そして、それをすぐ学級通信で親や家にひろめていく。  
④ 学年学級行事、PTA行事のみなおし、集団でのとりくみ、どうしてもお互いからみあわないと出来ないような行事（たとえば、地域をめぐる二年生のウォークラリー）とか体ごとぶつかりあう行事とか、体ごと遊び（ムなど）

⑤ 生き方を問う授業の視点をつよめていく読書なども、読みきかせをふやし、おやこ読本を広めていった。

⑥ 一人ひとりの要求をくみとる機会と場をふやし、だまつていたり、しゃべらない子をなくする努力をしていく。  
⑦ 学年学級こんだん会をふやしていく。

スイミング

上原しげお

ぼくは 学校のかえりに 水曜日は スイミングスクールだから わざとおそらくあるきました。うちに ついたから

「ただいま。」

といいました。うちの中から

「まだ まにあうよね。」

とお母さんたちがいいました。お母さんが出て來たから

ぼくは うちに入りました。

そしたら、お母さんが、

「スイミング まだまにあうよ。」

といいました。ぼくは お母さんから カバンをもらつて

二かいにいって きがえようとしました。お母さんが

「ここできがえなさい。」

といつたから ふろばできがえました。そして、きょうちゃんの おばさんから車で石山だい一のきょううまで、のせてもらいました。ついたから 車からおりようとしたらきよ

うちゃんの おばさんが、ぼくのお母さんに、

「バスが来るまで のつてなよ。」

といつたからお母さんが

「いいよ、いいよ。」

といいました。そしたらきようちやんのおばさんが、

「いいよ、まだ のつてなよ。」

といいました。また、きょうちゃんのおばさんが、  
「いいよ。きょうは 大サービスなんだから。」

といいました。そしたら お母さんが、

「でも、いいよ。」ついたから、ぼくは私の中で、

（やつた）と思いました。バスが來たので、おりようとし

ら前にいたお母さんが さきにおりたから ぼくが、

「はやく、おりて。」

といいました。外にでて、バスにはいました。

およぐのがおわって外で バスを まつてもなかなか

こなくて、こおりそうになりました。いつもバスは、五時

ごろくるのに六時ごろ來ました。そして、うちでこたつに

入っていました。ぼくはスイミングスクールにいくのがい

やなのは、ぼくたちのクラスの先生がこわいし、クロール

の十メートルおよぐのも、おかげないと「十一きゅうにお

とすよ。」とかいつたりするからです。そして、スイミン

グにいくのもぼくが 「いく。」ついていたのも、もし、

ぼくが「いかない。」といつたらお母さんは、

「ほんとうに いかないの。」

とか いうからです。

上原君の日記からですが、今子どものおかれている生活  
中での自由と民主主義の問題を直視せざるを得ません。ま  
い日子どもは何一つ不自由もなければ、みたされているよ

うです。でも、決して、みたされない精神の荒廃を教師がじっくり見守つていかなくてはならないとつくづく思います。

なにか弱い子を見るといじめたくなる上原君の気持ち、まともなことへの反抗をしていく彼らの気持ちを、もっと深くつかんでいく必要があります。

子どもの文化を高め生活を耕やしていく家庭・子どもが充分育つていくとき最も安心できる人生の基地はどうなっているのでしょうか。

子どものことを直してほしいときちゃんと連絡帳にかいたつもりなのに、その子の弱点を家庭は暖ためることでなく、その子を夫婦は一晩中追求し、暴力的にたたき次の日休んだという例もありました。この家庭の父は大きな商社の新潟支社長です。一見何一つ不安もないようで、子育ての具体的なところで、どうにもならない父母がふえています。分散したこの親も、連帯にはあともう一步なのですが…。

#### 四、あつまりつくり売りあそぶ二年生子どもまつりを

二年の四月のPTAの役員会で私は、先のような子どものバラバラな姿と親の力を今一步共に高めあいたいと熱っぽく訴えました。

それは、地域ごとに区わけし男女混合でグループをつくり見守つていかなくてはならないといろいろつくり出で、学校で売りあう、子どもまつりを提案したのです。

七月に一日、子どもまつり、をやるために五月末からとりくむことにしたのです。反対もありましたが、子どもの現状をうれているばかりではだめということになりました。折りしも、五月十九日龟田おやこ劇場では千四百名を集めつくり売りあう、子どもまつりをやりました。そのグループのつくり方、なまみ、売りかた、町のつくり方を、クラスの二十名のお母さんが、参加して、みてくれることになったのです。

話はスムーズにすすみ、クラスの親を十一のグループにわけました。日頃つきあわない家庭もいっしょになりました。あるマンションに三家族いるのに、行き来することなく一年すごして来たのです。さて、どんな店をだすか、どんな約束で売るかなど様々なことが、親店長、子ども店長によって相談され、実施にうつされました。昼間うちにいるいっしょのグループは、親同志が小物入れをつくつたり粘土でつくるアクセサリーにも手をのばしました。夜しか集まれないグループは、何時までも子どもの話題でなかなか仕事がすすまなかつたとか。又、あるグループは竹で道具をつくることを決め、私の住んでいるとなりの地域まで、竹の支入れに来ました。そして、様々な竹の遊具がつくり

れました。

子ども達に、お金の大切さを教えるためにも、売るものの値段は、二十八円とか複雑なものにしたり、現金を扱わず、子ども銀行をつくり、一円を一ピースとするニセ金に換金して使うことにしました。

当日は、子どもと親とくに父親が十名以上も来て、ゲームコーナーを開設したりして、雰囲気はもり上がりました。

「二年生子どもまつり」

松岡きょうすけ

ぼくのグループは、みずほ・さちこ・ぼくの三人です。かうとき、ぼくは、金くんのみせの方によくいってきました。また、たいちゃんのみせで、二十ピースで竹でできたぞうりをかいりました。それも、たいちゃんのお母さんたちが、「十ピースまであげるからかって。」といつたのでしかたなくかいました。そして、じぶんのみせにかえってみたら、こんどは、みずほが、水でっぽうを一本かってきました。

みせがおわってから、先生からきいたんだけど、百ピースしかみんなはつかっていないときいて、こんなにかえるのにびっくりしました。

さまざまな感想がよせられました。やったあとのまとめ

でわかったことですが、

①子ども同志が、よく、友だちの家へいってあそぶようになった。

②よく、大人にあつてあいさつするようになつた。

③大人同志も、いまでも、どこかのうちに集まつてはおしゃべりをしている。

④あの時かたのものを今でも遊具として使つたり、メダカやふなも生きている。

⑤子ども同志、おみせごっこを数人でしている。  
⑥お父さんたちがつきあつてている。

きりがありません。心からたのしいことや他とかかわりあって創りだすよろこびやあつてなつてもそれが子どもの中に生きていることなどが、とても今大切なことではないかと思います。子どもの現状にみんながおどろき、心配しなんとかしようとなれば、父母と手をたずさえていろいろ実践が出来るものと思います。そして、そのよろこびは、はつきりは田には見えないけど、すこしずつ、子どもへの



親のやさしいはげましとなつたり、子どもの気をゆるした授業中の発言となつてあらわれたり、私の学年・学級通信についての暖かい反応となつてあらわれ始めていることも事実です。

## 五、学年学級そして全校の親と共に

——中野山の文化と教育を考える会——

地域の中学校教師・おやこ劇場役員・医師・看護婦・P.T.A.役員・主婦など様々な人たちで「考える会」を始めちょうど半年になります。出入り自由、約束らしいものはありません。子育てのはなし・子ども文化や地域文化のはなし・規則のはなし・生き方を考える性のはなし……きりがありませんが、毎月一回学習をします。レポーターは、地域の方が主です。性教育をすすめる保健所に勤める大学の講師の方が「性教育」を語れば、地域の小中学校のP.T.A.の講演会に必ず出ていくようになりました。「十人五十人の集会ですが、たまらなくたのしいのです。」「ああ、こんな話なら私の学校のP.T.A.でやらないことはそんしちゃう」「次の役員会に提案しましよう」となるわけです。

学校の一步外での教育や文化の核が、どんどん学校の中、子どもの中に入っていく状況は、もういっぱいありすぎるほどあります。

今、上からの教育改革がすすめられている中で、子どものが発達の課題・学校づくりの課題の具体的なものを持ちながら父母と手をむすんでいけば、どんな教育運動だって出来ていくのです。夢は大きく大きく、方法は最も具体的にすすめます。毎日学校に来たり、校外を歩き、子どもや親にあうのが、ほんとにたのしい私たちの教育運動をすすめたいのですね。

(新潟市・南中野山小学校)